

島原半島の平和を守った湿地
おきたなわて
沖田礮の戦い

市内を流れる中尾川の周辺は、沖田礮の戦いの主な舞台となりました。

天正12(1584)年5月4日(新暦)、佐賀の戦国武将・龍造寺隆信は、5万7千の兵を引き連れて島原半島に総攻撃を仕掛けてきました。これに対し、有馬氏と島津氏の連合軍はわずか8千。明らかに劣勢でした。そこで連合軍は、敗走を装って湿地帯の中に延びる一本道(礮)の中に龍造寺軍を導き入れ、その動きを封じ込めました。そして道の両側から敵兵を攻め、総大将・隆信を討ち取ったのです。

島原半島の平和を守り、九州の勢力地図を大きく変える場となった湿地帯は、島原半島全体が南北に引っ張られ、半島の中央部が沈降したためにできたものです。大地の動きがつくる地形は、時に歴史を動かす舞台になります。

沖田礮の戦いの舞台



龍造寺隆信の供養塔
(沖田礮古戦場跡：北門町)



第11回島原半島ユネスコ世界ジオパークセミナー

島原半島の歴史・文化・自然、そしてそれらを支えるジオの魅力を、各分野の専門家が毎月やさしく紹介します。ふるってご参加ください。

- ▶と き 5月27日(土) 10時～12時
- ▶ところ がまだすドーム セミナー室
- ▶講 師 松島 健 氏 (九州大学准教授 地震火山観測研究センター)
- ▶題 目 「雲仙普賢岳噴火災害から26年、熊本地震から1年」
～地球の活動が人の生活を大きく変える～

※講演後、希望者には有料ゾーン(入館料割引価格)の案内を行います

- ▶問い合わせ先 島原半島ジオパーク協議会 (☎65-5540)

